

現行の調査内容をベースとした森林生態系評価の枠組み（案）

既存のモニタリングの調査項目に森林生態的な要素を追加し、これまでの植生や土壌侵食の評価検証と併せ、生態的視点での評価を実施する。

<枠組みのイメージ>

【現行】

現行水源施策モニタリング調査
 実施主体：県
 ◇ 森林整備モニタリング
 ◇ 土壌保全モニタリング
 ◇ 溪畔林整備モニタリング
 ◇ 対照流域法モニタリング
 ◇ 人工林整備状況調査

森林生態系評価項目の追加等

※委託により検討

【新規】

改良水源施策モニタリング調査
 実施主体：県
 <改良例>
 ◇ 森林整備モニタリング
 ・ 調査プロット 50 箇所において、新たに昆虫類や土壌微生物等の調査を追加
 ◇ 人工林整備状況調査
 ・ 整備ランク毎に数箇所、昆虫類、土壌微生物等の調査を追加

＜主な検討項目＞

- ◇ 森林生態系評価項目の追加等
 - ・ 調査の視点及び調査項目
 - ・ 調査方法 など
- ◇ 県民参加モニタリング調査
 - ・ 調査項目
 - ・ 実施方法 など
- ◇ 評価・解析手法
 - ・ 評価の視点及び評価方法
 - ・ 評価体制 など

丹沢大山モニタリング調査

新 県民参加モニタリング調査

※委託により検討

評価・解析

※委託により検討

<検討スケジュール>

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
県	◆発注 ◆調整			◆実施検討
業務委託	◆業務計画等提出 ◆内容検討	◇中間報告	◇中間報告	◆成果報告 ◆最終取りまとめ
必要に応じ 学識経験者 から意見聴 取(※)	◆第1回ヒア ・ 検討の進め方 ・ モニタリング等の現状 ・ 調査項目等の方向性	◆第2回ヒア ・ 調査項目(案) ・ 評価解析の方向性 ・ 県民参加の方向性	◆第3回ヒア ・ 評価解析手法 ・ 県民参加手法 ・ 評価体制	◆第4回ヒア ・ 最終案
施策専門 委員会	◆第1回 ・ 検討の進め方	◆第2回 ・ 検討状況報告	◆第3回 ・ 検討状況報告	◆第4回 ・ 実現性等 の検討

※必要に応じ検討委員会等の設置も視野に入れる。